

ブラジル連邦共和国 カカオと一緒に、森を育てる。

## SDGsラジオを読んでみよう！

森を作りながら、作物を育てる。

世界には、そんな農業があるんですよ。

南米ブラジル連邦共和国では、いろんな種類の樹木を植えて自然に近い状態に近づけ、植物たちが持つ力を利用する「アグロ

フォレストリー」という農業で、チョコレートの原料になるカカオを育てる、日系移民の農家さんたちがいます。

世界中のカカオ農家さんを訪れて、支援活動を行う食品会社の明治は、このアグロフォレストリーをサポートするために、カカオ豆の

加工技術をレクチャーしたり、肥料を寄贈したり、さまざまな活動に取り組んでいます。

農家の収入が安定し、おいしいチョコレートになるカカオ豆ができて、森も再生できる。

農家さんにとっても、チョコレートを食べる私たちにとっても、環境にとっても、うれしい農業ですね。

人にも、地球にも「うれしいこと」って、まだまだたくさんあるはずですよ。

ちょっとみんなで話し合ってみましょう。

## SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



ブラジル連邦共和国(以下「ブラジル」)は、南アメリカ大陸最大の面積約850万km<sup>2</sup>(日本の約22倍)、人口約2億1000万人(世界第7位)という超大国です。日本のほぼ真裏に位置する遠い国ですが、日系人が現在も多数暮らしており、日本企業の進出や日本人学校の設置など、両国間の交流は非常に活発です。国の産業は、農業・工業ともにさかんで、特に1990年頃から急激な経済成長を遂げ、2000年代には「BRICs」とよばれる新興経済国の一つに数えられるまでになりました。



アグロフォレストリー農園イメージ/  
カカオ農家(右)と配布した肥料(明治公式HPより)

ブラジルには、チョコレートの原材料となるカカオを育てる日系人の農家さんがたくさんいます。カカオの生産は、森林伐採による環境破壊などの重大な社会課題を抱えています。そこで明治では、10年以上にわたり、カカオ農家と協力して「アグロフォレストリー」という農法に取り組んでいます。アグロフォレストリーは、「アグリカルチャー(農業)」と「フォレストリー(林業)」を掛け合わせた造語で、森林伐採後の土地に、自然の生態系にならった多種の農林産物を共生させながら栽培する農法です。これにより、自然へのダメージを最小限に抑え、持続的にその土地を利用できるようになります。その他にも、カカオの加工・発酵技術をレクチャーしたり、肥料を寄贈したりなど、高品質なカカオの生産に向けたさまざまな活動に取り組むことで、SDGsの達成に向けて貢献しています。

## キーワード

日系人

外国に移住し、その国の国籍や永住権を取得した日本人およびその子孫のこと。ブラジルには現在約200万人以上の日系人が暮らしています。

ブリックス BRICs

「ブリックス」と読み、2000年代以降に著しい経済発展を遂げた5か国(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ共和国)の総称のことです。

森林伐採

森林の減少は野生動物に深刻なダメージを与えるだけでなく、二酸化炭素を吸収する能力が低下することで、地球温暖化の一因である「温室効果ガス」の増加にもつながります。

## 対象ゴール



### みなさんにできること！

ブラジルが抱えている問題に目を向け、さらに理解を深め、なにができるか考えていきましょう。

おさらい

- ブラジルには、カカオを育てる日系人の農家がたくさんいる。
- カカオの生産は、森林伐採による自然環境破壊などの重大な社会課題を抱えている。
- 「アグロフォレストリー農法」により、自然環境の保護に貢献している。

## メモ



SDGs ラジオ